

平成 30 年 11 月 1 日

各 位

会社名 シダックス株式会社  
 代表者名 代表取締役会長兼社長 志太 勤一  
 (JASDAQ コード番号 4837)  
 問合せ先 取締役 経営企画本部長  
 山本 大介  
 (TEL. 03-5784-8909)

特別損失の計上及び平成 31 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 31 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間において特別損失を計上するとともに、平成 30 年 6 月 27 日に公表いたしました平成 31 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上について（連結）

平成31年3月期第2四半期の連結決算において、当社が所有する主にケータイ会員管理システムの用に供する固定資産について、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、188百万円の減損損失を特別損失に計上いたします。

2. 平成 31 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間業績予想値の修正  
 (平成 30 年 4 月 1 日～平成 30 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
前回発表予想 (A)	62,000	200	△130	△3,800	△97.49
今回修正予想 (B)	65,504	△91	△695	△3,789	△97.20
増減額 (B-A)	3,504	△291	△565	10	
増減率 (%)	5.7	—	—	—	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 30 年 3 月期第 2 四半期)	72,240	△199	△1,694	△397	10.20

3. 修正の理由

売上高につきましては、トータルアウトソーシング事業において、現在特に力を入れております学童保育・児童館受託業務が順調で、また当該事業以外にも全国の自治体から大規模なものを含めて多くの案件を受託し、業務が堅調に推移した結果、当初予想を上回る事となりました。

営業利益につきましては、上記トータルアウトソーシング事業が好調なことから貢献する利益もありましたが、コントラクトフードサービス事業及びメディカルフードサービス事業においては、同業のみならず他業種との顧客獲得競争の激化に加え、特に 9 月に発生した北海道胆振東部地震及び酷暑や台風等による天候不順等の要因に伴う売上逸失等の影響額が約 94 百万円あった事、また、人手不足及び材料費の高騰等の事業環境下において、労務関係コストの上昇要因として 114 百万円、材料費関係として 44 百万円の負担増が生じました。また、トータルアウトソーシングセグメントの車両運行受託事業につき

まして、ガソリン価格の高騰から燃料費にて当初予想比で31百万円の負担増となりました。これらの事から当初計画を下回る事となりましたが、前年同期比では107百万円の改善となりました。

経常利益につきましては主に、カラオケ事業一部譲渡の際に、譲渡の対象から外れた数店舗分の閉店までの運営損失及び閉店コスト等が156百万円発生した事に加え、シンジケートローンのウェーブ（財務制限条項の適用除外）費用が200百万円発生した事により、一過性の営業外損失額の増加要因があり、当初計画を下回る事となりましたが、前年同期比では、998百万円の改善となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、9月に発生した北海道胆振東部地震等による災害損失20百万円が発生したものの、概ね当初予想通りとなりました。

また、通期の見通しにつきましては、業績に影響を与える諸要素を改めて精査しており、修正が必要であるかについて現時点で明らかにできませんが、修正が必要となった場合には遅滞なく公表いたします。

#### 4. 財務制限条項について

平成28年9月27日付で複数の金融機関との間で91億円のシンジケートローン契約を締結しており、当該契約において、平成31年3月期末日における財務数値について以下の財務制限条項が付されておりますが、当該財務制限条項につきましては関係金融機関と財務制限条項の変更について協議中です。

- ①平成31年3月期末における連結貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額を、直近の事業年度末日における連結貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額以上に維持すること
- ②平成31年3月期末日における連結損益計算書に記載される営業損益を29億円以上にすること

以 上